

「健全母性育成事業の新たな展開に関する研究」

石井千恵子¹⁾，小椋末子²⁾，長谷川進³⁾
白鳥順子⁴⁾，宮川幸子⁵⁾，田所文夫⁶⁾

- 1) 2) 3) 4) 神奈川県相模原保健所
5) 神奈川県看護教育大学校
6) 神奈川県相模原市田所産婦人科医院

要約：神奈川県では、昭和60年度より県立婦人総合センターに於いて思春期保健相談室を開設し医学的対応を必要とするケースは医師（産婦人科、精神科、泌尿器科）による相談を行って来ている。この後、昭和62年度より「かながわすこやか生活プラン」が策定され、プランの中のライフサイクル別課題の少年期にしぼり、各保健所でこの事業に取りくむ事になった。保健所における取りくみの方法として集団指導と個別指導の推進を課題として青少年を対象とした相談機関と連携を取りながらこの事業に取りくんでいる。又県としては思春期の性を軸としてそれに関する問題行動、障害、異常の解決と心身の健全な発達を図るという観点から指導用マニュアルの作成に取りくんでいる。県の思想を受けてこの問題を地域に根ざした活動に展開していくために、相模原保健所管内での実施状況と、相模原市医師会の協力により教育の実践を試み今後の「健全母性育成事業の新たな展開のモデルに資するため報告する。

見出し語：思春期保健事業、連絡会議 保健所の役割 新たな展開

1. 研究方法

(1)昭和60年度から平成2年度までの5年間に実施したネットワークづくりのための思春期保健連絡会議についての分析した。

(2)平成2年6月～11月の間に実施した思春期保健セミナーに参加した親95名に対し親の意識調査を実施した。

(3)平成2年9月に小学校5年生約200名を対象に産婦人科医師が学校現場で教育を実践し、親子の反応について調査した。

2. 相模原市における思春期保健事業

相模原市は神奈川県の西北に位置し人口53万人、老人人口6.8、平均年齢34才と県内市

町村に比し若い世代の多い市である。県内の人工妊娠中絶の状況は15～19才の女子人口の中絶率をみると表1及び図1に示す様に相模原保健所管内は県下第1位となっている。

出生数と人工妊娠中絶数では1975年から15年間の経緯を表2及び図2、図3でみると全年令

の出生数は減少しているにもかかわらず、10代の出生数は増加し10代の人工妊娠中絶は、6.4倍に増加している。この様な状況から、相模原保健所でこの事業を昭和60年度より開始した。

表1

県内の人工妊娠中絶の状況（保健所別、秩令別）

保健所及令市	市区町村	人工妊娠中絶件数 全年令	15～19歳 女子人口	中絶率 1/1000	
相模原保健所	平塚市 大井町 二宮町	770	74	12,672	5.8
鎌倉保健所	鎌倉市 藤沢市	541	29	10,906	2.7
茅渚保健所	茅渚市	989	61	14,147	4.3
小田原保健所	小田原市 湘南町 其の他町 湯河原町	887	48	10,005	4.7
相模原保健所	相模原市	2,443	199	24,083	8.3
三河保健所	三河市	18	1	2,225	0.4
那水保健所	那水市 海老名市 藤岡市 船川町	1,362	60	19,970	3.0
足柄上保健所	南足柄市 平井町 大井町 山北町	210	9	4,414	2.0
那久井保健所	城山町 那久井町 相模原町 茅渚町	158	9	3,110	2.9
荻野保健所	荻野市 伊勢原市	673	83	10,000	8.3
大和保健所	大和市 綾瀬市	501	31	12,501	2.5
茅ヶ崎保健所	茅ヶ崎町 厚木町	524	23	10,581	2.6
秩 令 市	横浜市全域	9,977	737	125,527	5.8
〃	川崎市全域	3,677	253	42,371	6.0
〃	横浜市全域	1,303	84	18,394	4.5
神 奈 川 県 計		24,023	1,711	320,858	5.2

●相模原保健所内へ、人口は平成元年1月1日現在。

図1

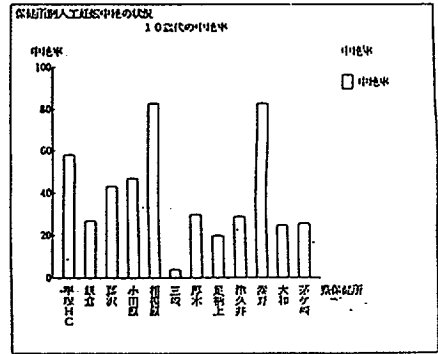


表2

出生数、人工妊娠中絶件数（全年令・10代）相模原市 1975～1989

年	出生数			人工妊娠中絶		
	全年令	10代	割合(%)	全年令	10代	割合(%)
1975	7270	57	0.78	2829	36	1.27
1976	7152	35	0.48	2832	34	1.29
1977	6966	57	0.82	2612	51	1.95
1978	6709	47	0.70	2751	41	1.49
1979	6270	69	1.10	2587	48	1.86
1980	6028	58	0.96	2591	63	2.43
1981	5992	68	1.13	2535	84	3.71
1982	5652	72	1.23	2499	84	3.36
1983	5799	89	1.71	2584	159	5.92
1984	5525	90	1.81	2577	167	6.24
1985	5514	80	1.45	2488	143	5.75
1986	5087	72	1.42	2568	179	6.71
1987	4608	79	1.71	2546	196	7.70
1988	5418	101	1.88	2504	194	7.35
1989	5364	92	1.72	2443	199	8.15

人口動態調査統計および厚生保健統計報告による。

図2

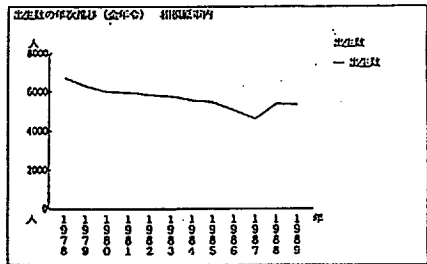
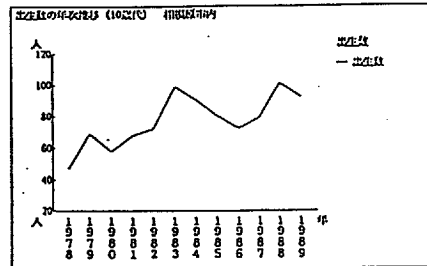


図3



3. ネットワークづくりの思春期保健連絡会議

集団指導、個別指導（面接、電話、家庭訪問）を効果的に推進するための市内関係機関連絡会議を開催しネットワークづくりを試みている。表3の如く、相模原市教育委員会、小・中校長会会長、学校保健主任部会長及び顧問校長、養護教諭部会長及び顧問校長、医師会長、PTA会長、警察署、児童相談所、青少年センター、市役所、保健所が現状を出し合い検討を重ねた。警察側では問題行動の具体例をあげ早く適切な対応が必要と、学校側は小学校就学以前に成長に応じた性に関する家庭での教育を求め、児童

表3 会員の現状

年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
事業名	地域保健活動	思春期保健事業	思春期保健事業	思春期保健事業	思春期保健事業
担当者	保健所の長 医師会、学校 児童相談所 警察署	保健所の長 及び担当者	保健所の長 及び担当者 PTA会長	保健所の長 及び担当者 PTA会長及び 役員	保健所の長 及び担当者 PTA会長及び 役員
内容	各機関の現状 を聞き合う	現状レベルの 見直し及び 連携を深める	思春期保健の 現状について 意見を交換する	性教育について 具体的な課題を 考える	性教育について 具体的な課題を 考える
成果	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。	現状と目標に ついて 性教育の現状 と課題について 意見を交換し た。	性教育の現状 と課題について 意見を交換し た。	性教育の現状 と課題について 意見を交換し た。	性教育の現状 と課題について 意見を交換し た。
課題	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。	各機関の現状 を把握し、 連携の必要性 を確認した。

相談所及青少年センターは連携の必要性を求めこの問題をそれぞれの機関が持っている機能を出し合い力を合せて課題を解決していこうと方向性を見出ししている。教育委員会は平成2年度に、指導者用マニュアルを完成の予定で取り組み、保健所は、親への教育が求められ、PTAとの連携による集団指導の増加（表4）、関係機関から廻ってくる個別相談の増加等（表5）このネットワークづくりは有効に役割を果たしている。

4. セミナー参加者の親の意識調査

性的問題は生き方の問題でもあり生命誕生の時期から関わっている機関としての保健所の役割は非常に大きい。例えば乳幼時期に排泄の清潔の世話等将来の成長に影響を与える。親の意識として一般的に「性的問題について深く触れる事により寝た子を起してくれるな」と学校側からよく聞くがセミナー参加者への親の意識調査の結果では98%が性教育は必要と答えている。

性別	年齢	職業	参加人数
男	20代	会社員	2
女	20代	主婦	2
男	30代	会社員	2
女	30代	主婦	2
男	40代	会社員	2
女	40代	主婦	2
男	50代	会社員	2
女	50代	主婦	2
男	60代	会社員	2
女	60代	主婦	2

性別	年齢	職業	参加人数
男	20代	会社員	2
女	20代	主婦	2
男	30代	会社員	2
女	30代	主婦	2
男	40代	会社員	2
女	40代	主婦	2
男	50代	会社員	2
女	50代	主婦	2
男	60代	会社員	2
女	60代	主婦	2

家庭で行われる性教育の現状は、表6の通りで

表6 教育実施の有無 (複数回答)

	計	男子を持つ親(87)	女子を持つ親(78)
教育した	62	24 (28%)	38 (49%)
教育しない	63	41 (47%)	22 (28%)
未記入	40	22 (25%)	18 (23%)

ある。男子を持つ親87人中、教育をしたと答えたもの28%と少く、女子を持つ親でも87人中、49%と半数である。親自身の知識は表7の如く雑誌、友人

表7 親の知識源 (複数)

知識源	人数	割合
雑誌	70	(74%)
友人	40	(42%)
テレビ	33	(35%)
その他	15	(16%)

が多く、現在思春期の子供を持つ親は特に指導

を受ける機会もなく女子が月経について指導された位であり親自身教育したくてもどう教育してよいかわからないのが現状である。教育の担当者は表8で示すようにそれぞれの立場の教育を希んでいる。内容は表8の様なものが必要と答えている。

表8 教育担当者(複数)

担当者	人数(95)
親	53(56%)
学校の教師	44(46%)
医師、保健師等	52(55%)

表9 性教育の内容(複数)

内容	人数(95)
男女の体の仕組み	83(87%)
性交渉、妊娠について	60(63%)
避妊の方法	29(31%)
その他(愛撫・思いやりの心等)	5(5%)

参加者の感想では男子の性は母親として全くわからない、大変参考になったが父親にも参加してほしいと答えている。

5. 教育の実践

学校教育の現場で、どの様に教育すればよいのか。産婦人科医師が教室に出向き、教育の実践を試み、子供たちの反応をまとめたので報告する。教育内容はあらかじめ、ききたいことを聴取し、男女の体のしくみ、胎児の成長過程のスライド、絵、心音のテープ等を媒体とした。

1) 児童の反応

- ぼくたちは今思春期だ。思春期の意味がわかった。
- 白くねばねばした液が出て心配ないとわかった、ありがとう。
- ちんこは不潔なところではなく大切なところだとわかった。
- 男子は大人になると性毛が生えるけどどうしてかと思っていたら先生は大事なところには

毛が生えると、ぼくの思っていた通りでよかった。

- ぼくの体の中にもおたまじゃくしの様な精子がいるのかと思った。
- 月経のこと女にしかないはずかしいものと思っていたけどちっともはずかしくない。
- 体の中にあるもの見たことなかったのでびっくりした。赤ちゃんのベットや通り道が出来ていたり人間の体はよく出来ている。
- 生理になる人もならない人もいると思っていたけどちがう事がわかった。
- 男性ホルモン、女性ホルモンがあるが、焼き肉やさんにもホルモンというのがあるけどそれとちがうことがわかった。
- カセットテープで聞いた赤ちゃんの心臓の音「ドキン、ドキン」とはっきりした音でびっくりした。
- 学校の先生から体の成長について教わったけど今度は子供から大人になって赤ちゃんを生むまで教わった。
- 8～9才で妊娠すると聞いてびっくりした。
- 赤ちゃんははじめから人間の形をしていると思っていたら卵でどどん育っていくことがわかった。私も北九州で生まれけど、水に浮いていて飲んでる水を出して上げるととても元気になる…私もそんなことしたなんて…でもした様にも思えてくる。
- 女だけが大変なのではなく男も思いやりが必要なので大変だと思う。
- 苦勞がなくてあっさり赤ちゃんを産めるわけではないから命の大切さがあると思う。
- ぼくたちの体の中に大切なものがいっぱい入

っていることがわかった。

- 体を大切にしてくれて元気になれるよう自分の体だけでなく他人の体も大切にしたいと思った。
- 男と女はにていると思っていたけど中味は全くちがう事がわかった。
- 話をきいてお母さんも苦勞したことがわかりお父さんお母さんに感謝したい。

2) 親の反応

- 私の子供は女子なので生理の話はしておきましたが、男子のことは話してありませんでしたが学校で男子に精通、女子に月経があると聞いて来たと話してくれ男子に精通があるのを不思議に思ったようですが小学生の頃から少しづつ話すのはよい事と思う。
- 子供からの質問に父母とも自然に答えられる様になった。
- 専門の先生に話していただけて大変よかった。
- この機会に女子へ優しさ思いやり、男子の強さを学んだ。子供たちがどこまで理解したかではなく、年齢に合ったどんな感じ方をすることが大切だと思う。
- 学年に合った内容を教えていただくと有難い。教育して下さい感謝している。
- お母さんのお腹にベットがあるのよ。お母さんのお腹って大切にしないでね。と本当によいことだと思う。
- 子供の発育も早く、環境で裸の絵など書いてある。間違った理解をされるより専門の先生に正しく子供に合ったことを教えて下さることは大変よい。
- 家ではなかなか話題になりにくい学校でこ

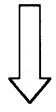
の様な機会があると家でも話すきっかけが出来よかった。女の子らしさ、男の子らしさを求めたい。

- 自分たちがこの様にして生まれたということが分ってよかった。心音を聞き母親の気持ちが伝わってくると思う。
- 理解しているようで十分ではなく継続指導があるとありがたい。
- 子供は具体的な内容に興奮さめやらぬ様子で話してくれた。家庭の中でもなるべく正直に話してやりたい。その中から生命の尊さ、不思議さを知り異性に対する思いやりが生まれるのを願っている。
- 子供は生まれるまでとても苦勞するけど生まれたらとても嬉しく喜びの方がずっと大きいことを子供と語り合え、親子の信頼関係が深まった。

まとめ

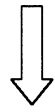
相模原市の人工妊娠中絶の状況からこの事業の推進の必要性を感じ5年間取り組んで来た結果、ネットワークづくりをめざした思春期保健事業連絡会議によってこの事業の輪が広がりとある。それぞれの機関の果たすべき役割が明確になり、学校は児童を、地域を当している保健所は親を教育するという事が会議で出され、学校、PTAとの連携が年々取り易くなって来ている。又関係機関との連携を密にする事により個別指導も実施し易くなっている。親の意識調査では、親も教育が必要との考えを持っている事が明らかになった。教育の実践で親子の反応の調査では、お互に思いやりを持つ事、命を大切にすること、親への感謝により信頼関係が生

まれた事など小学校5年生という思春期の入口といわれる不安定な時期に命を大切にすることを植えつけることの必要性を痛感した。教育の内容がこの年齢相応の理解の仕方、納得したと確認することが出来た。又半数の子供が家に帰ってからその内容を親に話しておりその内容を聞いた親の100%がとても良い事だと思ったと答えている。又6か月後に80%の児童が覚えていてと担任に話している。子供が育やかに成長することは子を持つ親の願いである。そのためには家庭が子供にとってぬくもりや家族の愛情が伝わる事が大切である。親と子、夫婦が家庭の重要性を見直すこと、触れ合い、学び、さまざまな体験を通して家庭のあり方をさがし培っていく事が必要である。社会の変化で弱くなって来たといわれる家庭での教育力を補かんするために、地域や行政がそれぞれの役割を確認し連携し合いながら、家庭を支援していく必要性を感じた。思春期の性を軸にした健全母性育成事業の展開について、学校で地域でどの様に工夫して実施したらよいか、子供と親の反応の中からくみ取る事が出来、今後の事業の展開に役立てたいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:神奈川県では、昭和60年度より県立婦人総合センターに於いて思春期保健相談室を開設し医学的対応を必要とするケースは医師(産婦人科、精神科、泌尿器科)による相談を行って来ている。この後、昭和62年度より「かながわすこやか生活プラン」が策定され、プランの中のライフサイクル別課題の少年期にしばり、各保健所でこの事業に取りくむ事になった。保健所における取りくみの方法として集団指導と個別指導の推進を課題として青少年を対象とした相談機関と連携を取りながらこの事業に取りくんでいる。又県としては思春期の性を軸としてそれに関する問題行動、障害、異常の解決と心身の健全な発達を図るという観点から指導用マニュアルの作成に取りくんでいる。県の思想を受けてこの問題を地域に根ざした活動に展開していくために、相模原保健所管内での実施状況と、相模原市医師会の協力により教育の実践を試み今後の「健全母性育成事業の新たな展開のモデル」に資するため報告する。